第１部　論文集
がん登録事業
活動報告

がん登録実務者の学びの場を考える
―愛媛県がん登録専門部会での活動経験から―

山下夏美[1]　菊内由貴[2]　田村純子[3]　矢野幸子[4]　新城秀和[5]　大平由津子[6]　西森京子[7]
寺本典弘[1]

1)　国立病院機構四国がんセンター　臨床研究センター　がん予防・疫学研究部
2)　国立病院機構四国がんセンター　教育研修部
3)　松山赤十字病院　医療情報管理課
4)　社会福祉法人恩賜財団　済生会今治病院　医療情報課
5)　市立宇和島病院　医事課
6)　国立病院機構四国がんセンター　医療情報管理室
7)　元国立病院機構四国がんセンター　医療情報管理室

要　旨

愛媛県がん登録専門部会では、がん登録の精度向上を目指し主に集合形式による研修会等の企画運営を行ってきた。研修会の企画の難しさや運営することの負担などの課題を抱えていた中、コロナ禍でこれまで通りの研修会開催が困難となった。新たな取り組みとして、活動検討委員会を立ち上げて課題の共有や整理をし、それらの解決のためにグループ活動を行った。この活動を基に、経験に応じて必要な研修内容とそれに合わせた学びの場について整理した。その具体として、初心者には、知識の習得に加え解釈の確認や議論を通し理解を深めるために共に学ぶ場が、熟練者には、より実務環境に即した個々の課題解決の場が必要である。このような経験に応じた学びの場について考察し、この活動を共有することで、県や施設を超えた教育システムの整備活動や教育・研修担当者の情報交換・知識習得の場が増えることを期待したい。

１．はじめに

愛媛県がん登録専門部会（以下、部会）はがん診療連携拠点病院等の整備に関する指針[1)]に基づき設置された愛媛県がん診療連携協議会に所属するがん診療連携拠点病院（拠点病院）7 つ、愛媛県指定のがん診療連携推進病院（推進病院）８つ、愛媛県保健福祉部健康増進課の医師やがん登録実務者（以下、実務者）等のがん登録関係者約 60 名（うち、2021 年 4 月時点の実務者 47 名）の集まりである。

実務者研修に関しては、主に対面集合形式で講義やグループワーク形式の研修会を 2009 年から年に 1,2 回行っていたが、各施設の実務者の能力、職務体制、診療内容の違いなどにより、必要な研修内容の幅が広いことが明らかになってきた。研修会担当者からは、企画の内容設定や運営の面で負担が大きい、などの声があるものの十分な対策を講じることができずにいた。コロナ禍でこれまでのような対面集合形式での研修会開催が困難になった事を契機に、部会の研修会等の企画運営の見直しを試みた。

2．活動検討委員会の立ち上げ

部会では年 2 回の会議が行われていたが、伝達事項を伝えるだけになりがちであったため、私達は、継続的に活動を検討していく場が新たに必要と考えた。部会内で有志を募り、実務者・がん登録に関わる医師等の 8 名で部会の下部組織として活動検討委員会を立ち上げた。各々が実務者育成に関して持っていた問題意識を共有した上で、年度の活動目標として、「1. 受験予定者のための学習や交流の場を作る。2. 部会活動や日常業務を円滑に進めるために、他施設との交流を通じて一緒に学ぶ。3. 部会の現状把握と課題の抽出・整理をし、次年度以降の活動計画に組み込む。」を挙げた。活動方法は、コミュニケーションを図りやすく、いくつかの異なる課題に柔軟に取り組みやすいようグループに分かれた活動を試みた。

3．グループ活動の立ち上げ

グループ活動を行うにあたり、実務者を対象に研修やがん登録業務上の活動として必要としているもの（ニーズ）の調査を行った。結果と活動検討委員会の活動目標を基に、グループの設定・リーダーの選出をし、参加者を募った。1 年間の活動内容や頻度・方法は各グループの裁量に任せた。グループ活動の成果は、(a)活動状況、(b)グループ活動の目的を達成できたか、（ｃ）年度末のアンケートで評価した。

（1）ニーズ調査の結果

「部会の活動として、興味があるもの、やってみたいもの」として、13 の選択肢を用意し、回答を得た(表 1)。業務に直結しそうなことや、勉強会のよう

表 1 活動ニーズの調査結果

	専門部会の活動として、興味があるのもの、やってみたいもの	初心者* (n=10)	初心者以外 (n=15)
1	勉強会①国がんのe-learningで提供されている初級認定試験用の演習問題を解く（5大がん）	1	3
2	勉強会②試験用のプール問題を解く（５大がん）	3	4
3	勉強会③国がんの中級認定試験用の演習問題を解く（５大がん以外も含む）	1	5
4	勉強会④試験用のプール問題を解く（５大がん以外も含む）	2	5
5	データ活用①院内での報告書やHP掲載、冊子（施設別の集計）などについて	0	1
6	データ活用②冊子（全県版）を含む県全体のデータの利活用や生存率などの統計手法について	0	5
7	全国がん提出時のエラーチェックリスト作成	1	6
8	研修会の企画について（テーマや講師の希望などを考える）	0	1
9	研修会などの企画方法についての知恵を学ぶ	1	2
10	Moodleの活用方法について	1	2
11	交流の活性化について（横のつながりを作るための活動）	2	2
12	日常業務の疑問や質問を活用できるように整理する	1	9
13	これから業務を始める人のための資料や情報の整理	2	3

（2021年3月実施、無記名アンケート、回答数25、回答率53%）

*初心者：認定資格未取得者、および、初級認定取得後、更新試験を未経験の者

に試験に関することは、関心が高いことが示唆された。

一方で、回答者の希望が集中しておらず、幅広いニーズがあると解釈できる結果でもあった。

（2）グループの設定

「A. 企画・運営」、「B. 学び方・教え方」、「C. 業務悩み相談」、「D. 試験対策」、「E. 勉強会」、「F. データ利活用」の 6 つのグループ(表 2)を設定した。活動検討委員会のメンバーはリーダー役として活動の計画･運営の中心を担った。予定された活動方法は、メールを活用した情報共有のみから、Web 会議システムを用いた会議や勉強会を複数回行うなど、様々であった。各グループの参加人数は 2～19 名であり、実務者の全体数に近い 43 名が 1 つ以上のグループに参加した。初級認定試験受験予定者を含む多くの初心者が「D. 試験対策」グループに参加し、中級認定資格取得者等の業務経験が長い熟練者は、それぞれの状況に応じてグループを選択している傾向を認めた。

4. グループ活動の成果

(a)活動状況

Web 会議システムを用いた会議や勉強会など予め場を設定しているような活動は概ね実行できた。活動当初は、慣れない Web 会議システムでの活動に不安があったが、回数を重ねるにつれて慣れも見え始め、グループによっては発言しやすい環境も構築できつつあった。Web 会議システムを用いることで、移動負担の軽減が可能であり、1 回あたりの時間設定や活動回数にも自由度が増した。一方、参加者自らメーリングリストに発信することや主体的に活動することが求められる「C. 業務悩み相談」や「E. 勉強会」グループでは、活発な活動になったとは言えなかった。

(b)グループ活動の目的を達成できたか

「B. 学び方・教え方」グループは、自施設で新任者等に教育を実施する機会があるという共通の立場の参加者であったため、問題意識も似ており、活発な意見交換が行えた。「D. 試験対策」グループも、試験対策という共通ニーズを持つ参加者に対して、交流の場や勉強の機会を提供できた。 「A. 企画・運営」グループは、予定していた研修会の運営には

表 2　2021 年度各グループの目的と活動報告のまとめ

グループ名・略称(人数)	目的	活動方法・内容	評価
A. 企画・運営 (2)	これまで関わっていないメンバーと研修会の企画・運営を行い、企画に関われる人材を増やす。	『5大がん登録講座』などの研修会で講義内容の提案や講師の選定、質問とりまとめなどを行う。	・研修会は例年通りの開催ができたが、活動参加メンバーが集まらなかった。 ・蓄積された運営ノウハウの引き継ぎや他の活動に活かせる工夫があると良い。 ・日頃の問題等を企画に活かせるような仕組みを検討したい。
B. 学び方・教え方 (6)	がん登録業務を教える機会のある同士で教え方についての意見交換・現状把握し、育成のための到達目標を立てる。	全国がんの目視チェック、他施設の教育方法・体制、人材育成のための目標値設定について意見交換を行う(web会議、3回)。	・少人数での開催、共通の問題意識を持っていることが活発な意見交換に繋がった。 ・予定された議題以外のことも意見交換できた。 ・自施設の登録体制について、気づきがあった。
C. 業務悩み相談 (19)	業務を円滑に行うため、些細な疑問でも相談できる場や人脈を作る。	相談用のテンプレートを作成し、メールを活用し、問題の共有やグループ内外での解決を行う。	・活発な活動にならず、直に交流のない実務者がMLを利用し問題解決は難しいと考えられた。 ・発言しやすい環境作りが必要か。
D. 試験対策 (16)	初級認定・更新試験に合格できる。実務で5大がん登録ができる。施設間交流ができる。	Webによるグループ研修会(5回)、メーリングリストでプール問題配信(1日1題、計24題)、情報交換を行う。	・初級認定試験受験者が好成績で合格できた。 ・実務者間のコミュニケーションが出来てきた。 ・試験受験者の実務への関わり方は施設により異なる事がわかり、想定していた活動を行うことが難しかった。
E. 勉強会 (12)	実務経験3～4年以降の人を対象。主に自己学習を進めていくうえで必要なつながりを作る。	自己学習を行う。参加メンバーで希望があればweb勉強会や情報交換等を行う。	・継続的な自己学習のための教材整備は重要である。 ・がん登録業務や自己学習の時間が十分とれない人も多かった。
F. データ利活用 (6)	愛媛県の院内がん登録データの利活用について長期的に検討を行う。	2020年診断症例の集計内容、コロナ関連のデータ活用、などについて検討(web会議、1回)する。	・冊子作成用データの集計について、事前に多施設で検討ができた。 ・フォーマットの事前確認を施設で分担して行えた。 ・県共通フォーマットでは表せない施設の特徴を示すため、施設独自の集計結果の掲載方法を検討し2施設で試験的に実施した。

Legend：年度末のグループ活動報告より抜粋　グループ正式名称　A. 研修会企画・運営　B. 学び方・教え方　～私はこうしています～　C. 日常業務悩み相談 D. はじめての試験対策 E. 勉強会 F. 愛媛県の院内がん登録データ利活用

問題なかったが、参加者が少なく当初の目的の一つであった企画に関わる人材を増やすという目的は達成できなかった。

（ｃ）年度末のアンケート

グループ活動全体に対する問いでは、回答者 32 名のうち 53%が「良かった」と回答した。資格未取得者から初級更新試験未経験者までの初心者とそれ以外で分けた場合、「良かった」と回答したのは初心者では 73%、初心者以外では 35%であった。さらに、具体的な内容に関する問い（図 1）では、「実務スキルの向上に役立った」、「他施設とのつながりや交流が増えた」、「学習時間の確保につながった」、「楽しかった」、「モチベーション維持につながった」の項目で初心者の半数以上が「そう思う」と回答しており、初心者の多くの人が参加した「D. 試験対策」グループの活動を反映した評価であった。初心者以外の群では、参加したグループも異なるため、個々の評価にばらつきを認めた。

5．ニーズに応じた学びの場の提案

画一的な集合形式の研修では扱うことが容易ではなかった異なるニーズに応じた学びの場がグループ活動により設定できたという経験は、研修会企画運営の課題解決の糸口となると考える。集合形式の研修とグループ活動の異なる良さを活かし効果的かつ効率的な学びの場としていくために、実務者のニーズを大きく 3 つに整理し、今後の取り組み方法について考察した。経験の段階に応じたアプローチが有効であるという鈴木ら[2)] の整理を参考にした。

(1)初心者のニーズ

がん登録実務をこれから始める人・始めたばかりの人のニーズとして、初級認定の取得や 5 大がん登録実務やその基礎となる標準登録様式の習得などがあげられる。知識の習得は既に国立がん研究センター等から提供されている教材等を活用し自己学習が

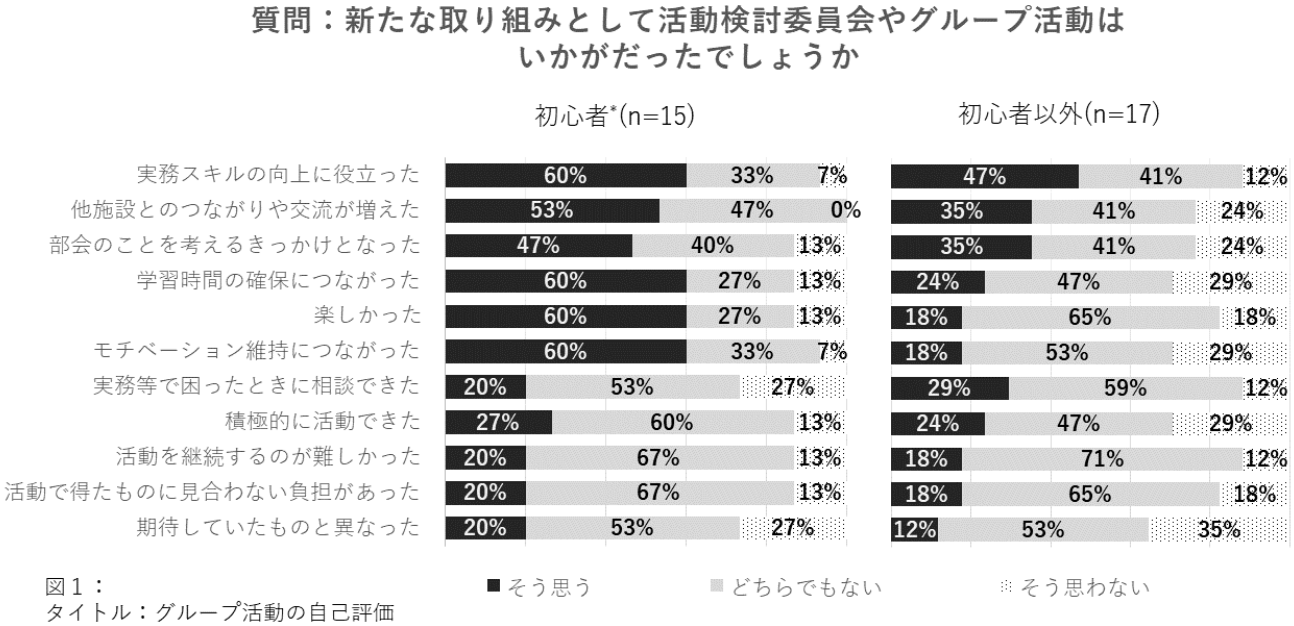

図１：
タイトル：グループ活動の自己評価
活動後、活動委員会やグループ活動に関する質問（活動検討委員会やグループ活動はいかがだったでしょうか）に対する回答。2022年3月実施、無記名アンケート、回答数32、回答率68%

*初心者：認定資格未取得者、および、初級認定取得後、更新試験を未経験の者

図 1 グループ活動の自己評価

可能である。しかし、知識を活用して業務を行うには、実務の基本姿勢を学び、自分の解釈の確認や他

者との議論を通し理解を深める場も必要である。また、困ったときに相談できる施設の枠を超えた人脈作りも重要である。これらのニーズは、以前からどこの施設でも共通するという特徴を持つため、県全体で初心者教育の枠組みを作ることが有効であると考えた。研修担当者の負担軽減という観点も含めながら、「D. 試験対策」グループの実績をもとに部会の定例企画としてのパッケージ化を検討する予定である。

(2)熟練者のニーズ

経験を重ねてくると、5 大がん以外の登録実務や実務者の育成、施設の状況に応じた業務遂行能力等が求められるなど、ニーズは様々である。そのため全体的な研修会企画では対応することが難しく、個別化学習やより実務環境に即した学びの場で、自ら課題を見つけ、細分化されたテーマに対して解決を試みることが必要である。グループ活動では、これまでの経験で培われてきたリーダーシップ力や他施設とのコミュニケーション力が解決すべき課題の設定や運営にもうまく活かされ、充実した活動になったと推察する。個々の能力に依存する面も大きいが、こういったノウハウも施設を超えて共有できる場にしたい。グループ活動で得られた成果をどのように部会全体に共有し活用していくか、という点にも視野を広げながら、グループ活動の可能性を模索する。

(3)様々な経験段階の共通ニーズ

全員に共通するニーズである知識の更新や情報伝達については講義形式による方法が適切であるため、今後も Web 会議システムや e-learning システム等を活用する。また、異なる経験段階の実務者の情報交換の場や、業務環境の整備も共通のニーズである。対面集合形式の研修会では様々なニーズを包括的に解決していた側面があるが、コロナ禍で対面の交流には制限がある状況であるため、そのニーズを紐解き、対面でなくてもできることを一つずつ実行している。具体例として、実務体制等を共有するための施設プロフィールシートの作成、県内の認定更新試験受験者の定期的な情報収集、学習管理システムである moodle[3)]を用いた学習環境の整備、部会の問合せ窓口や部会関係者のメーリングリストの再周知などを行っている。

(4)県を超えた連携の必要性

今回の取り組みにより、ニーズに応じた学びの場の重要性が明らかとなった。しかし、県単位で個別に整備することは企画運営担当者の負担が大きく、共有できる情報も限られる。必要となる教材や教育システムに関しては共通の部分が大きいので、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会や日本がん登録協議会などが中心となった施設や県の境を超えた協力体制の構築が望まれる。

6. まとめ

部会で行った研修や活動に関する新たな取り組みについて報告した。経験段階のニーズに応じた学びの場の重要性と県や施設の枠を超えた連携の必要性が示唆された。今後、教育システムの整備や研修担当者自身の知識習得・情報交換などについて、広域な協力体制が構築されることを期待したい。

謝辞

愛媛県がん診療連携協議会がん登録専門部会の活動を支えてくださっている皆様に感謝申し上げます。

引用文献

1) 厚生労働省健康局長通知令和 4 年 8 月 1 日健発 0801 第 16 号. がん診療連携拠点病院等の整備について(https://www.mhlw.go.jp/content/000972176.pdf (2022 年 9 月 9 日最終アクセス)
2) 鈴木克明, 研修設計マニュアル　人材育成のためのインストラクショナルデザイン, 北大路書

房, 2015, p.106-107
3) Moodle (https://moodle.org/　2022 年 9 月 9 日 最終アクセス)